



Flair

MAGAZINE OF TEIKYO ALTERNATIVE LIFE [フレア]

FACT BOOK

50周年記念特別号
SPECIAL EDITION

学生たちのイマ、覗いてみました。



RE: TEIKYU MIND >>

〈努力をすべての基とし 偏見を排し 幅広い知識を身につけ

国際的視野に立って判断ができ 実学を通して創造力および人間味豊かな

専門性ある人材の養成を目的とする〉

これは帝京大学“建学の精神”。これを現代語訳してみると——

SEE THROUGH WITH YOUR OWN EYES.

—— きちんと自分の目で見よう。

EXPLORE EVERYTHING AROUND YOU.

—— たくさんのことを知ろう。

EXPLORE THE WORLD.

—— 世界を知ろう。

HAVE A LIVELY IMAGINATION.

—— 柔軟な想像力を身につけよう。

JOY TO CREATE.

—— そして、創造を楽しもう。

MOVE ON AND ON.

—— もっともっと、先へ進もう。

CREATE THE NEW VALUE FOR YOUR AGE.

—— 世の中に新しい価値を生み出そう。

JUST BE YOURSELF.

—— ぜんぶ、自分らしく。

2016年、創立50周年を迎える帝京大学は、この節目の年に

いまいちど原点である“建学の精神”に立ち返ります。

3号にわたる『Flair』特別号の第1弾は、

在学生にスポットを当てたインタビュー集。

彼らのことばを通して、帝京大学の“自分流”のベースである

この精神をより深く理解し、

帝京大生であることを誇りに思ってもらいたい。

だから、帝京大学のFACT(いま)を知る在学生に聞きました——

あなたは帝京大学でどんな“自分流”を実現しましたか？





GUEST 朝井リョウ

1989年生まれ、小説家。2009年に『桐島、部活やめるってよ』（集英社）で第22回小説すばる新人賞を受賞しデビュー。現在『武道館』のドラマがフジテレビ系にて放送中。今秋には史上最年少で直木賞を受賞した『何者』の映画が公開予定。

小説家・朝井リョウさんと考える

「自分流」って何だろう？

直木賞作家・朝井リョウさんを迎え、
現役学生3名と座談会を緊急開催！
テーマは“『自分流』は『気づき』から”。

ここでは「就活」と「社会」を
共通言語として掲げ、

それぞれの心の底にぼんやりと沈殿する
リアルな不安や不満を、はきだしてもらうことに。

私たちがこの社会で実現できる

「自分流」っていったい何だろう？

STUDENTS



山本昌幸

文学部史学科3年生。幼い頃から好きだった歴史の研究をするため、来年は大学院に進学する予定。そして将来は学芸員の資格を取り、歴史のエキスパートとなるのが目標。



堀田里暁

経済学部経営学科4年生。春からは大学院に進学し、専門分野の研究を行いながら、音楽活動を継続する予定。朝井さんと同様、“兼業ミュージシャン”として活動する。



小林大祐

法学部法律学科4年生。大学入学直後から、自らの圧倒的な成長を求めて、4年間学業や行事を全うした頑張り屋さん。今春からコンサル系のベンチャー企業に就職が内定。

自身を客観視することで得た、
人としての成長。

——朝井さんの著書『何者』には、SNS 社会となった現在、就活に翻弄される学生たちが、“何者かになろう”と必死にもがく心理や人間関係がリアルに描かれている。本作は大学卒業後、入社1年目に仕事をしながら執筆した作品だ。
朝井 いきなりで失礼なのですが、現在、みなさんの就活はどんな状況ですか？

小林 僕はコンサル系の企業に決まって、もうすでに研修が始まっています。

堀田 すごくですよね。小林さんはすごく熱心に就活してたって、同級生の間でも噂になりましたから。

朝井 噂になるくらいの活動ってすごいですね。具体的にどういったことをしていたんですか？

小林 どの企業でも“社長さんを男にしたい”

という気持ちで活動していました。会社説明会に行った際には「社長と会わせてください」と言って、アポイントをとって会わせてもらってから面接に臨んだりして、**将来独立することも視野に入れて**、今の会社に決めました。

朝井 なるほど、将来独立を考えている自分が、今の自分にプレッシャーを与えているわけですね。まさに“自分流”！

小林 そんな褒められることじゃないです（笑）。**就活がゴールではなく勝負はこれから**だと思うので、春からはとにかく頑張ります。

山本 僕は小林さんや堀田さんと違い、今年就活なんですけど、昔から歴史が好きで、歴史に関することは趣味にしたいと思ってます。でも仲間の斬新な着眼点や、頭の良さみたいなものを見聞きすると、すごく落ち込むんですね……。

小林 ちなみに、たとえばどんな能力を目の当

りにすると落ち込むの？

山本 うーん、僕よりも文章をまとめるのがすごくまいとか……。

朝井 大丈夫、それなら絶対に挽回できますよ。文章の美しさは訓練で身につきます！

堀田 朝井さんが言うんだから間違いないですね（笑）。

山本 なんやかやれそうな気がしてきました！ちなみに朝井さんの就活はどうだったんですか？

朝井 就活生のときって、面接官を含めた社会人全員が、特殊能力を使える人たちのような気がしていたというか。自分もその能力がないと内定がもらえないかも、と思うようになって変に背伸びをして余計に空回りしていましたね。

小林 どうやって間違いに気づいたんですか？

朝井 私の場合は、**小説を書いて自分自身を客観視**することで、考えを是正できました。

小林 自分を知るため、成長するために自分流の手段を持つことって大事ですね。

理想の“自分流”は規則正しい生活と健康から。

山本 『何者』についてお聞きしたいんですけど、あの内容って実体験ですか？

堀田 それ気になる！学校の友達の間でも、その話題になっていたんです。「朝井さんって実はこのキャラなのかもね」、みたいな(笑)。

朝井 丁寧に読み込んでもらって嬉しいな(笑)。具体的なモデルがいるわけではないですが、当時就活しながら見聞きしていたものは自然に反映されているかもしれないですね。

小林 読んでドキッとした人は多いと思いますよ、「これって俺(私)のことじゃん！」って。あと全体の空気感などを含めて、どの描写も具体的にすごくリアルですし。

山本 そうそう。実際、**就活中はライバルより少しでも優位に立ちたい**という気持ちが周りの就活仲間からも雰囲気伝わってきて、すごく焦るという話を聞いています。

小林 キャリアサポートセンターに行く友達が背中まで語ってくる、みたいなね。

堀田 朝井さん、私からもいいですか。私は就職はせず、大学院に進学をします。朝井さんの執筆活動ではないですが、私も音楽活動をして、今後は勉強をしながら音楽活動もして、最終的には音楽で頑張りたいと思っています。朝井さんは学生時代、**好きなこと**と**就職の狭間で葛藤**はなかったですか？

朝井 それはなかったですね。書くことはいつでもどこでもできるので、就職するからといってその機会が奪われる感覚はゼロでした。好きなことが仕事になることへの不安も、とくには。堀田 なるほど。では社会人になってから、仕事と執筆の兼業はどうでした？

朝井 体力的には大変でしたが、私の中ではすごく楽しかったです。ただ、同期は週末に上司とゴルフに行ったり業務に関する勉強をしている中、私は執筆のことばかり考えていたので、会社に対して申し訳なく思う気持ちはずねにありました。なので、いつか仕事は辞めなきゃいけないとは思っていました。堀田さんも勉強しながら、音楽活動は続けるんですよね？

堀田 そのつもりです。でも私は学校との兼業ですが、フリーターをしながら音楽活動をするなど、音楽ひと筋で必死に打ち込んでいる人には勝てないのかなあって不安で……。

朝井 フリーターをしながら必死に打ち込む方が大成するなんて、そんなことは絶対ないです。私は大学時代にダンスをやっていたんですけど、そのままダンスの道に行く人と、公務員試験を受ける友人がいて。今どちらがダンスの練習をできているかと言えば、公務員の方です。彼は試験を控えた1年間こそ捨てましたが、

今は一定の時間働いて安定したお給料をもらえているから、空いた時間はダンスに費やせるんですよ。バイト生活だとそうはいかないですよ。

堀田 そういう考え方もあるんですね。

朝井 そもそも日本人は“苦勞した人こそ報われる”的な風潮が強いけど、それは、絶対に間違いだと思うんですよ(笑)！何をやるにも、**心身ともに疲弊した状態では良い作品は作れるはずがない**です。自分の好きなことを続けていく上で一番大事なものは、**とにかく健康であること**だと思います。堀田さんは自身の環境を整えた上で、**兼業という自分流**を貫けばいいと思いますよ。

堀田 就活でも何でも、まずは健全な身体と生活環境を整えることが大切なんですね。

小林 会社の仕事をしつつ、執筆もされていたことは、いわゆる「好き」を「仕事」にしたことであり、それもある種の“自分流”だと思うんですけど、それを貫いたことで犠牲に

なったものはありますか？

朝井 そういう感覚はないです。私と同じで、みなさんも早い段階から“したいこと”を自覚されている感じがするので、いつか発生するかもしれない不安に目を向けるよりも、その**希少な幸福を大切に噛みしめてください**。

小林 では就活や兼業作家を経た今、朝井さんにとって、大きな意味での“自分流”とは？

朝井 自分流……、そうですねえ、会社に入ると自分流はなかなか難しいかも……(笑)。

小林 あれっ!? 気のせいかな、何だか今後がものすごい不安になってきました(笑)。

朝井 まあ、冗談はさておき(笑)。実は面接のとき、私は緊張を和らげるために、**自分の声を録音しながら面接**に臨んでいたんです。「後で録音を聞く自分」というものを面接会場に持ち込み、それを聞くことでテンパっている自分を客観視できる作業のことを考えたら、不思議と面接で緊張をしなかったんですよ。私に

とって“自分流”を挙げるなら、そうやって自身を客観視する作業かもしれないですね。毎日行っている「小説を書く」という行為も自分を客観視することとほぼ同義ですし。

山本 そうすることで、朝井さん自身の中で変化したことは何ですか？

朝井 不思議な話なのですが、自分を**客観視することで、自分の主観がきちんと育っていく**感覚がありました。他人の目から見た自分を見つめていると、他人の要求に応えようとして無理をしている部分が炙り出されるので。その範囲が大きくなりすぎているときは、きっと、他人の頭の中にいすぎているんですよ。自分の頭の中で物事を判断する**大切さ**が身に染みます。そして繰り返しになりますが、間違いなのは、「就職」も「好き」を仕事にするにも、まず健康でいることと生活環境を整えること。劣悪な環境で心身をすり減らして努力しろと言ってくる人は、あなたの成功を望んでいません！



01

このグラウンドで
過ごした4年間で、
新しい道を
拓いてくれた。

—
KOUYOU AOYAGI +
TAKAHIRO NISHIMURA
BASEBALL CLUB

進む道は違っても、
また同じマウンドに登りたい。

パァン、パァン！ 小高い丘にある相模湖グラウンドに、ボールがグローブにおさまる小気味よい音がこだまする。グラウンドでキャッチボールをするのは、青柳晃洋さんと西村天裕さんだ。ともに硬式野球部の中心投手として、首都大学リーグ制覇をめざしてチームをけん引してきた。この春からは、青柳さんはプロ野球の阪神タイガース、西村さんは社会人野球とそれぞれの道を進む。ふたりが初めて出会ったのは、大学入学前に行われた練習会。偶然、ブルペンが隣同士になったのが、初対面だった。「コイツ、えげつない速球を投げるな」と、青柳さん。対する西村さんは「自分の世界を持ったピッチングをしている」とサイドスローで技巧派の青柳さんに舌を巻いた。

同じピッチャーというポジションということで、お互いを意識してきたふたり。入学以来、ずっとライバルとして切磋琢磨してきた。4年間の野球生活でもっとも苦しかったのが「練習です」とふたりは口をそろえている。その目標はたったひとつ、チームの勝利だ。同じゴールに向かって突き進んでいるからこそ、ライバル



〆〆
お互いがいなければ、きつとここまで
成長できなかつた。

のすごさを素直に認めることができる。

「やはり150キロの速球は魅力です。コントロールもいいですし。とてもうやまいですよ」と青柳さんが言えば、「ヤギ（青柳さん）はしっかりとした考えを持っている」と西村さん。「それにグラウンドの外でも周りが見えていて、みんなに優しく接することができる。何でも誠実に対応してくれる、本当にいいヤツ。尊敬しています」という言葉に、「恥ずかしいですね」と照れ臭そうな青柳さん。「（西村さんは）いじられキャラなので、つまらないときもあるんですけど、周りを和ませてくれる」と冗談を言って笑う。

そう、ふたりはライバルでもあり友人なのだ。練習が休みの日には食事や遊びに行ったりとプ

ライバートと一緒に過ごすことも多い。ふたりに限らず、チーム全員が実には和気あいあいとして仲がいい。その理由のひとつが、寮での共同生活にあるのだろう。野球部員の多くが医療技術学部のスポーツ医療学科に籍を置いている。朝、バスに乗って八王子キャンパスへ。授業が終わり寮に戻ってきたら、夕食後、夜9時すぎまで練習に励む。それこそ24時間一緒にいるのだから、気心が知れないはずがない。

「上下関係が厳しくなく、1年生と4年生が普通におしゃべりをします。とても野球がやりやすい環境です」と西村さん。寮には屋内練習場やトレーニングルームが完備され、帝京大学スポーツ医科学センターのサポートにより科学的に体力強化を図ることができる。どこまでも野

球と勉強に専念できる環境だ。

「自分の目標を持って、挫折しそうなときもその目標をしっかり見据えて、一日一日を大切に頑張ってもらいたいと思います」

この春、大学を卒業する西村さんから在学生へのメッセージだ。ドラフト候補だった西村さんだったが、昨秋、試合中のケガで手術を余儀なくされ、残念ながらプロからの声がかからなかった。「落ち込んでいてもしょうがない。自分の次の目標に向けて頑張っていきます」と語る西村さんに、「手術は大変だと思うけど、プロで待ってるから早くこいよ」と青柳さんは声をかける。

このグラウンドを巣立っても、ふたりの関係はずっと変わらない。

1966年の創部以来、多くの部員がこの相模湖グラウンドで汗を流してきた。71年首都大学秋季リーグ戦で初優勝を飾って以来、これまで3度のリーグ優勝を記録してきた。今シーズンも野球部OBでもある唐澤良一監督のもとリーグ制覇、そして日本一をめざす。高校時代は無名だった青柳さんと西村さん。ふたりを見出した唐澤監督曰く、「お互いがいたから、切磋琢磨して成長できたのだと思います」。

LEFT. 西村天裕

医療技術学部スポーツ医療学科4年生。最速154キロを誇る本格派右腕。抜群の制球力と変化球で、3年生の秋季リーグ最優秀投手に。プロでの活躍が期待されたがケガのために社会人野球NTT東日本に就職。

RIGHT. 青柳晃洋

医療技術学部スポーツ医療学科4年生。技巧派サイドスローとして1年生より活躍。4年生秋季リーグで最多の6勝を挙げベストナイン選出。2015年ドラフト会議で阪神タイガースから5位で指名され入団。





02 みんなの夢と 思いをのせて、大空へ。

KATSUMI SUZUKI SKY PROJECT

2年もの時間をかけて、
みんなの思いを形にする。

「本当に飛ぶんだ。自分たちでもちゃんと飛ばせるモノを作るんだ」

宇都宮キャンパスのグラウンドで、人力飛行機「ガネット」がふわりと宙に浮かんだとき、鈴木克美さんは心の中でそう叫んだ。地上からのみんなの歓声が、さらに機体を飛翔させる。「SKY PROJECT (スカイプロジェクト)」は、人力飛行機を作り上げ、飛翔させることを目標とするサークルだ。人力飛行機は、その名の通り人の力を動力として飛ぶプロペラ飛行機。人力とは言え、その飛行距離は数百メートルを優に超え、数十キロメートルにおよぶこともある。

さまざまな大学で、大空への夢を抱く学生たちが人力飛行機を作り、その飛距離を競うことに情熱を燃やしている。部長を務める理工学部機械・精密システム工学科2年生の鈴木さんもそんな空へのあこがれを抱くひとり。航空宇宙工学科をはじめとする理工学部がある宇都宮キャンパスを拠点に活動しているだけあって、飛行機に興味がある学生はもとより、ものづくりが好きな学生が集まってくる。機体を作るために、設計主任を中心として、コックピットの外殻となるフェアリング班、翼班、プロペラ班、駆動班、炭素繊維を取り扱うFRP班など、7つのチームに分かれて、分業制で製作活動をする。機体の両翼は全長30メートル以上だが、その部品は細かく、まるでプラモデルを作っている



みんなの思いを宿して、大空に飛び立つ。

どこまでも、遠くをめざして……。

かのように緻密な作業だ。「授業で学んだことが役に立っている」とは言え、根気と集中力が勝負。当然のことながら、機体ができるまでに費やす時間も長い。製作スケジュールを守るために、夜を徹して作業をすることも少なくない。2015年度の機体「ガネット」が誕生するのに2年かかった。タイミングによっては、在部中に手がけた飛行機が飛ぶ姿に立ち会えない部員も存在する。そんなみんなの地道な努力を知っているだけに、メインパイロットである鈴木さんは、その重責を痛いほどわかっている。

そんな鈴木さんをはじめ部員たちを支えているのが顧問のひとり、航空宇宙工学科の渡部武夫先生だ。自身も学生時代に人力飛行機を仲間とともに手がけていただけに、部員たちの気持ちがよくわかる。鈴木さんの相談に乗ったり、プロジェクトが上手く進むように裏方として各方面に働きかける。

「航空宇宙工学科にいらっしやる、さまざまな分野のプロフェッショナルな先生方から意見を

いただける。医療技術学部柔道整復学科のトレーナー養成の先生にはパイロットの体力づくりをお願いしています」

人力飛行機は自転車のようにペダルを漕いでプロペラを駆動する。パイロットは言わばエンジン。その脚力が飛行距離にもものを言う。

「この期間にこれだけのパワーを引き出すには、どのようなトレーニングが必要か、といったアドバイスがとても助かります」と、鈴木さん。

さらにキャンパス内にある実習工場にはプロのクラフトマンがいるので、人力飛行機に必要な部品製作をサポートしてもらえる。宇都宮キャンパスはスカイプロジェクトにとって、またとない恵まれた環境だ。初飛行も成功してひと安心の鈴木さん。みんなの夢は、毎夏、琵琶湖で開催される鳥人間コンテストに挑戦すること。2013年に出場した際の記録は568メートルだった。「今度は2キロ以上飛行することが全員の目標です」と鈴木さんは語る。みんなの思いが翼に宿り、大空に飛び立つ。

2002年に誕生した「SKY PROJECT (スカイプロジェクト)」。2013年、鳥人間コンテストに出場。2015年大学や団体が参加するHPA飛行会へ出場と、着実に成長を続けている。「Gannet (ガネット)」のコンセプトは「質実剛健」。現在2016年鳥人間コンテストに向けて「赤翡翠 (アカショウビン)」を製作中。みんなのチャレンジ精神が、その翼に宿る。



鈴木克美

理工学部機械・精密システム工学科2年生。「今までで一番印象深かったのは、やはり機体が浮いたときですね。自分たちの手で作った飛行機が空を飛ぶというのは、夢とロマンがあります。新入部員大歓迎です！」。





訓練のため手袋を着用せずに行っています。

FILE #03
SEE
THROUGH WITH
YOUR OWN EYES

03

救急救命の
スキルを磨いて、
医療の世界へ。

—
YUTARO SUZUKI ACLS CLUB

もしもの際に動けないと、
絶対に後悔する。

「ACLS」、多くの方にとっては耳慣れない言葉だろう。今、駅や公共施設で「AED」を目にすることが当たり前になった。突然、心肺停止を起こして倒れた人を、その場にいる人たちが救うための医療機器だ。このようなAEDでの心肺蘇生や人工呼吸など、一般の人間が行う応急手当のことを「BLS」と呼ぶ。「一次救命処置」という意味で、特別な医療技術が必要とせず知識さえあれば誰でもできる。救急隊や医師に心肺停止者を引き継ぐまでの、もっとも基本的な

救命処置と言える。この次の段階の緊急医療が「ACLS」と言われる「二次救命処置」だ。病院などの医療施設で医師や医療スタッフが行う、より高度な救急救命だ。医療器材や投薬によって、専門的に心肺の蘇生を試みる。人の命を救うという医療の要だろう。このACLSを行うための知識・技術を、トレーニングして高めようというのが、板橋キャンパスを拠点にして活動する「ACLS研究会」だ。サークルのメンバーは、医学部や薬学部、医療技術学部とみんな医療系の学生。医療現場で不可欠なスキルであるACLSは、医療系の学部では必修の科目となっている。それなのに、なぜあえてサークル

に入ってまで、ACLSを学ぶのだろうか？
「やはり、継続してトレーニングをしていないと、いざというときに身体が動かないと思うんです。倒れた人を救命できなかつたら絶対に後悔する。だから、ACLS研究会に入って訓練をしようと思ったのが、一番の動機ですね」
そう語るのは研究会の代表を務める医学部医学科4年生の鈴木優太郎さんだ。現在、鈴木さんを筆頭にメンバーは約100名ほど。みんな将来は医療の道に進むだけあって、活動に臨む姿勢は一樣に真摯だ。月に一度の定例会で、専門の講師を招いて勉強会を開催したり、骨折などの応急処置や心臓マッサージ、訓練人形への薬

FILE #03
SEE
THROUGH WITH
YOUR OWN EYES



人の命を救いたい。

チームの一体感が力になる。



ACLS研究会は、坂本哲也先生によって2003年に創部された。「研究会では、学部の正規の病院実習よりもっと早い段階で、僕らの指導のもと病院で見学をします。早く医療の現場に触れることで、人を助けることに対する気持ちを強くします。研究会の活動は、彼らが大学で医学を学んでいく上で、何のために勉強をしているかというモチベーションにつながると考えています」。

剤投与などの訓練をする。黙々とトレーニングをこなす眼差しは、全員真剣そのものだ。

「実は最初はちょっと飽きるのではないかと考えていたんです。やっていることが地味ですからね」と言う鈴木さんだが、活動を続けるうちに「やりがい」を感じるようになってきた。「ACLSというのはひとりではできないんです。チームみんなで協力してひとりの患者さんを助けることに、やりがいがあると気づきました」

ACLSは、複数の人間が分担して効率よく蘇生処置を進めるチーム医療。全員の息がピッタリと合うことが必要だ。今では、「チームの一体感を強く感じることができるようになった」と鈴木さんは話す。そんな研究会のチームワークが発揮されたのが、昨年開催された「第1回全国医学生CPR（心肺蘇生法）選手権大会」だ。日本全国から医学生が集まり心肺蘇生技術を競うこの大会で、ACLS研究会は見事頂点に輝いた。選手権に向けて、毎週、板橋キャンパス内のシミュレーション教育センターで地道な練習を積んできた成果だ。

「帝京大学の医療施設は全国でも屈指ですから。それに先生方が協力的で熱心に教えていただけるので」と謙遜するが、人の命を救いたい、というみんなの思いが「一体」となった結果だろう。実際に研究会の活動は社会でも役に立っている。市民マラソンのサポートや地元の防災訓練に参加したりと、そのすそ野は学外にも広がっている。「今後は後輩を育てていきたい」と語る鈴木さん。ACLS研究会に宿る救命への熱意は、脈々と受け継がれていく。



鈴木優太郎

医学部医学科4年生。ACLS研究会の代表として、「第1回全国医学生CPR（心肺蘇生法）選手権大会」でチームに優勝をもたらした。「心臓マッサージは体力も必要。大会に向けて筋トレをしました」。





04 学生が主体となって作る、「私たちのお茶会」。

AMI NEGISHI JAPANESE TEA CEREMONY CLUB

自然と生まれる、おもてなしの心。
そして、相手を思いやる気持ち。

「今日は、小堀遠州流のお茶会にお越しいただきましてありがとうございます」

ある日の放課後、静まり返る板橋キャンパスの教室で、茶道部の練習が行われていた。最初のあいさつを行ったのは「後見」と呼ばれる補佐役の学生。お茶を点てる、その名の通り「点て」と呼ばれる亭主役の学生とともに、深くお辞儀をしてお茶会が始まる。

脇で見守るのは、薬学部が相模湖町（現相模原市）にあった時代から約30年もの間、当茶道部を指導してくださっている師範・坂本宗和先生。茶道には複数の流派があるが、ここで行われているのは小堀遠州流と呼ばれる武家茶道だ。柄杓の取り方や置き方など所作の一つひとつが細かく、坂本先生曰く「他の流派と比べてひと手間多いため、『私にはとても覚えら

れません』とおっしゃる方もいるほど。学生のみなさんは、複雑にもかかわらずよく覚えてくれます」。

茶道部の大きな年間イベントは、10月の学園祭と、11月に相模原市で行われる本陣祭でのお茶会。特に5月に入部した1年生は、学園祭が初の舞台となる。比較的難しいお点前だが、茶道初心者であっても10月までにすべて覚え、学園祭でお客様をおもてなしするのが毎年の目標だ。部長の根岸亜実さんは「私が1年生のときは、道具を取るときの手や持ち替え方など、細かい部分を間違えることが多くて大変でした。先輩や先生に丁寧にご指導いただき、少しずつできるようになってきたという感じです」と、その奮闘ぶりを振り返ってくれた。

最初は苦勞が絶えなかった。先週やったことを覚えていないと、次に進めない。部活に行く前には、何度も復習を繰り返してきた。「茶道はワイワイ盛り上がるものではないけれ

楽しいから、続けてこられた。

そうしたら自然と、茶道が

たくさんのお話を教えてくれた。



ど、確実に私は楽しんできたと思います。高校までは書道をやっていたのですが、その日の気分でいつも書いていた字が書けないことがあるんです。茶道もまた、『自分と向き合う時間』という意味では似ている。その時間が好きです。点（た）てているときは、きれいに点（た）てることだけを考えます。そうしないと失敗しますから」

3年間をかけて、自分なりに茶道との向き合い方を見つけてきた根岸さん。同学年の部員はひとりだけだが、後輩である2年生は6人、1年生は12人も入部してくれた。昨年の学園祭では2年生が中心となり、どんなお菓子やお花を選ぶか、どうすれば1年生を立てることができるかなど、後輩たちが積極的に発言しながら自分たちのお茶会を作っていたという。

毎年の色は、きちんとお茶会に出る。その証拠に、昨年は学園祭に遊びに来られた卒業生の方々に「今年のお茶会、良かったよ」と言っていたのだそう。「もうすぐ引退と思うと寂しいけど、私も卒業後、学園祭に遊びに来ます」と、根岸さんは笑顔を見せた。

茶道を通じて、学生たちは成長していく。坂本先生も、彼女らの自主性を育てるためにお茶会のときは口出しを一切しないそうだ。「何も言わなくてもみなさん、立派にやってくれています。だから、これから楽しみなんです」と目を細めた。顧問である薬学部の栗原順一学部長も「茶道から学んだおもてなしの気持ちや礼儀は、医療人としてこれから患者さんを相手にする上で大切な力になると思います。彼女たちの所作は、実に美しいですよ」と話してくれた。

日本の伝統に、自分たちの色をプラスしながら楽しむ部員たち。その姿勢は受け継がれ、さらなる進化を遂げていこう。

FILE #04

EXPLORE

THE WORLD



上:茶道は、流派によって作法がそれぞれ微妙に異なる。小堀遠州流は、客が釘付けになるほど勢よく泡を立てるのが特徴。/下:根岸さんの点（た）てたお茶を楽しむ坂本先生たち。部で練習をするときは招く側と招かれる側に分かれ、部員たちはお茶の点（た）て方と同時に、招かれた側の作法も学ぶ。最初にお菓子を食べ、お茶が運ばれてきたらまず器を拝見してその美しさを楽しむ。お茶を飲んだあとは、感想も忘れずに。



根岸 亜実

薬学部薬学科3年生。茶道部部长。週に1日、板橋キャンパスの教室で「立礼（りゅうれい）」と呼ばれる、椅子に座って行う茶道を練習中。日本文化が好きだったことから、大学入学後、初めて茶道に触れた。

TEIKYO A TO Z

2016年、帝京大生のすべて。

A AMBICIOUS

あなたの野望は？
全国を旅行して
回って、
都道府県全制覇！
老後は沖縄で
暮らしたい！
結婚する♡

B BOOK

今読んでいる本は？
「図書館戦争」
シリーズ（有川浩著）
「高校時代にごく好きだった
シリーズ。最近また読んでみた
くなって手に取りました」
(診療放射線学科1年・金谷真歩)

C CLUB / CIRCLE

こんなクラブ・サークルも。



左から女子バレー部(八王子キャンパス) / 吹奏楽部(八王子キャンパス) / 合気道部(宇都宮キャンパス)

I I LOVE ???

これにハマっています。
ボルダリング！
他には「友だちとちよっ
と素敵なカフェに行く
こと」「スノボ」「旅行」
「焼きプリン」など。
(臨床検査学科4年 山本祐輝)

H HISTORY

総合博物館が開館。
八王子キャンパス新校舎棟「SORATIO SQUARE
(ソラティオスクエア)」内に「帝京大学総合博
物館」が開館しました。大学の歴史を知るの
はもちろん、多摩の自然を紹介するコーナーも
あります。

G GLOBALISM

国際交流。
海外提携校の数 = 36 (H27・4月)
海外からの留学生 = 348 (H27・八王子キャンパス)
留学する帝京大生 = 143 (H27・八王子キャンパス)
*実績は他キャンパス、短期大学、大学院などを除いた数です。

F FESTIVAL

熱い学園祭。
帝桜祭(板橋キャンパス) / 青春祭(八王子キャンパス) /
帝祭(宇都宮キャンパス) / 帝京祭(福岡キャンパス)

E ENGLISH

学内英会話教室。
八王子キャンパスにある学内語学学校の「ユニタ
ス外語学院」。講師は全員ネイティブで就職にも
役立つと評判。何より学内にあるため、授業の空
き時間を有効活用できるのが嬉しい！

D DAISUKI!

人生で一番勉強してる！
「校舎が新しくキレイ」「実
習工場など設備が充実
している」などの意見も。
(視能矯正学科2年 生活美佳)

J JIMOTO

ジモトのオススメ。
「小田原城。春の桜がキレイ！夜のラ
イトアップもステキ」(神奈川県) / 「ス
カイツリーの展望台。景色が最高」(東
京都) / 「ひたち海浜公園。四季の花が
キレイ。季節ごとにさまざまなイベン
トをやっています」(茨城県) / 「宮島。揚
げもみじが美味しい！」(広島県)

K KOIBANA

みんなの恋愛事情。
付き合っている人は
いますか？
NO 58% YES 42%
*「feel TEIKYO 2011」より(全キャンパス対象)

L LIVE BY MYSELF

一人暮らしってどう？
[1カ月の生活費]
¥46,071
[1カ月の家賃] ¥38,210 [1カ月の仕送り] ¥53,217
*宇都宮キャンパス

M MANNER

帝京マナー守ってる？
学生証を
首からかける
学食の席取り
はしちやダメ！
(確保するのは
大変！)
*板橋キャンパス

N NOODLE

麺いろいろ。
特製つけ麺(麺1.5倍)
480円(板橋キャンパス「ゴドレッチョ」)
他キャンパスにも、それぞれ名物の麺があるので
ぜひ！

O OBENTO

宇都宮は駅弁発祥地。
「松浦家の玄氣いなり
500円」(税込)

T TO DO LIST

みんなの「やることリスト」。
✓ 国家試験合格！
✓ サークルメンバー募集
✓ 就活のための自己分析
✓ 自転車通学でやせる！

S SOUVENIR OF TEIKYO

帝京グッズは手土産にも！
ユニフォームティディベア(チア
リーディング部) 3,090円 /
ユニフォームティディベア(ラグ
ビー部・ココア) 3,090円
帝京ニット帽 2,000円
帝京オリジナル
クッキー(33枚入り)
2,200円
帝京マフラー 3,000円
*価格は全て税込
http://store.shopping.
yahoo.co.jp/teikyo-store/

R RELAX TIME

リラックスのおとも。
「アロマ」「ボディ
クリーム」「入浴剤」
「たくさん映画を観る」
「ビーズクッション」
「アロマキャンドル」

Q QUALIFICATIONS

今、人気の資格。
保育士(教育学部初等教育学科子ども教育
コース)*1 / 救急救命士国家試験受
験資格(福岡医療技術学部医療技術学科救
急救命士コースなど)*1 / キャンプインス
ト ラクター(医療技術学部スポーツ医療学科健
康スポーツコースなど)*2
*1 所定の単位を修得し、卒業することで取得で
きる資格または受験資格
*2 その他の取得可能資格や、めざせる資格

P PET (PARTNER)

みんなのペット教えて！
フラワー(セキセイインコ)
「帰ってくるよピーピー
鳴いてくれるのが可愛い」
くう(トイプードル)
「すべてが可愛い♡」

U U AND I

仲良しは似ている。
1年のときから
仲良しです。
全員看護学科の4年生、
左から、高岩万理子さん、
田中純さん、西田春菜さん。

V VIEW POINT

絶景スポット。
「大学と病院の間」
*板橋キャンパス
「病院近くや学校のまわりの桜」

W WEEKENDER

ステキな週末。
彼女とデート♡
「友だちと一緒に東京の
有名スポットへ」「家で
んびり読書」「友だちの家
に泊まりに」「国試勉強の
合間のおやつ」
(診療放射線学科3年 藤平竜也)

X 20XX

あと○年後の自分は？
「立派な臨床検査技師」
「仕事とプライベート
を充実させて穏やかに
生活している」
「2019年、
ラグビーW杯に出場！」
「頼られる作業療法士」

Y YUMMY

帝京の美味しいもの。
今週のオムライス450円(スープ付) / ゴデ唐ラン
チ400円(ご飯、味噌汁付)

Z ZZZ...

寝る前に何やってる？
「良いことや
楽しいことを
考えながら
寝る」
「音楽を聴きながら寝る」
「軽い
ストレッチ」



05

読む、伝える ——。
言葉を糧に世界を広げる。

—
KANAMI MIYAGUCHI + YUKA NISHIYAMA
KYODOKU SUPPORTERS

読書は自分ひとりだけでなく、
みんなで楽しめる。

八王子キャンパスにあるメディアライブラリーセンター (MELIC) を訪れると、目に入るのが、本棚に手書きされたメッセージだ。黒板仕様の棚に、おすすめの作品や作家、感想など、本に関するさまざまなコメントが書かれている。イラストや写真などを使い創意工夫し表現されているので見ているだけで楽しく、思わずその本を手にとってみたいくなる。これは「共読」という新しい読書スタイルのひとつ。個人で楽しむ読書を、みんなで「薦め、読み合せ、話し合う」という試みだ。その共読を、さまざまなプロジェクトで推進しているのが、4年前に誕生した「共読ライブラリー」。MELICを利用した際に体験した方も多だろう。

さらに、この共読ライブラリーの一端を担っているのが、学生主体の組織「共読サポ-

ーター」。学部や学科、学年の垣根を越えて、これまで100名以上が活動してきた。宮口果菜美さんと西山結花さんも、その一員だ。将来、出版関連の仕事を目指している宮口さんは、偶然、図書館で「共読サポーター募集中」という貼り紙を見て「編集や本について学べたならいいなあ」と思い参加。西山さんは、「私は図書館司書になりたいと考えていて、司書の勉強の一環にもなるなと思ったのと、黒板を使った本棚が初めて見る形だったので珍しく、自分でもやってみたく思いました」。他のサポーターも将来のため、あるいは純粋に図書館が好き、と参加した理由はそれぞれ。しかし、サポーター全員に共通しているのは、本が好きということ。「本について語り出すとなかなか止まらない人が多いですね」と宮口さんは笑う。

それでは、ふたりが考える「共読」のおもしろさとは？

「読書って、ひとりで本を読んで『ああ、おも



2012年、八王子キャンパスのメディアライブラリーセンターに誕生した共読ライブラリー。「人・本・学びの未来をつくる」というコンセプトのもと、ユニークなスタイルで新しい読書の形を推進している。そのプロジェクトの一端を担っているのが、学生主体の組織「共読サポーター」だ。図書館総合展に出展するなど、その活動は学外にも広がり、注目を集めている（今号の写真はすべて、図書館総合展出展の際のもの）。

LEFT. 宮口果菜美

文学部社会学科3年生。卒業後の進路は出版業界を希望。「共読サポーターは、人にアピールするなどの交流が多いので、本が好きで人にかかわるのも好きという方に向いていますよ。そんな人は、ぜひ！」。

RIGHT. 西山結花

文学部日本文学学科3年生。図書館司書になりたいと、共読サポーターに参加。「人におすすめするのが苦手でしたが青春祭で耐性ができました(笑)。本が好きなので大丈夫なので、ぜひ参加してください」。



人に読書の魅力を伝えることで、 もっと本が好きになった。

しろかったな』と本を本棚に戻すじゃないですか。共読はそれで終わりではなく『この本いいよ』って薦め合うようなことなんです。たとえば、共読サポーターの活動のひとつに『ビブリオバトル』があります。観客の前で、発表者が5分間で本を薦めて、観客がどの発表者が薦めた本を読みたくなったかを競うんです。このように、読書をひとりで終わらせない、みんなに薦めていくのが共読だと思ってます」（宮口さん）
西山さんも、宮口さんの話にながさき語る。「『わくわく』『ぼろぼろ』『きゅんきゅん』などの

スタンプを本の帯に押す『ブックバトン』という企画があります。自分の読んだ本の感想をスタンプで誰かに伝えて、その感想を受けた人が『これはこういう本なんだな』とか思って手を伸ばす。でも実際に読んでみたら違う感想を持つかもしれない。自分の持った感想をどうやって共有し合うのか、そういった部分が共読の魅力のひとつです」
このふたりだけでなく、サポーターみんなが共読に惹かれている。他にも、青春祭で「共読フェスタ」を開催したり、年に1度の図書館総

合展に出展したりと、他大学や企業など学外の方にも、共読の魅力を知ってもらおう活動を実施。2016年度も新規メンバーを募集する。
「地味で面倒くさいなどマイナスなイメージも多い読書を、実はおもしろいだと気づかせたい」と語る宮口さん。「自分が興味のある本だけではなく、もっといろんな本があるんだよ。知らないジャンルに手を出すのは楽しいんだよ、ということを伝えたい」と言う西山さん。
共読サポーターによって、共読の世界はぐんぐんと広がっていく。





06

やわらかな発想で、
自分とは違う「他人」を知る。

—
YUKI HAYASHI
SAGYOTEKI CIRCLE

ものづくりを通して、
クライアントの暮らしを治す。

「いらっしゃいませ！」

段ボールで作られた疑似店舗の中から、子どもたちが会場を歩き交うお客さんに向かって元気に声をかける。店舗には、飲食店や建設会社さらに市役所の看板が掲げられている。「子どもがつくるまち ミニおおむた」は、子どもたちが自らの手で理想の街を作り、仕事をしたり買い物しながら、社会のしくみを体験することを目的としたイベントだ。その子どもたちの輪の中で、手取り足取り手助けをしている学生たちがいる。地元大牟田市にある福岡キャンパスの「作業的サークル」のメンバーだ。

「やはりボランティアは、いろんな人と知り合えるし、自分が知らないことを経験することもできます。とても楽しいためになりますね」

と、語るのはサークルのリーダー林勇希さんだ。メンバーのほとんどが福岡医療技術学部で作業療法士をめざして勉強をしている。作業療法士とはどのような仕事だろうか？

「基本的にはリハビリのサポートです。たとえば障がいを負う前に手芸を楽しんでいた人がいたら、手芸をリハビリに組み込んで、患者さんのモチベーションを上げていくようにします」

趣味だけでなく家事や仕事、日常生活にかかわる諸活動である「作業」を通して、身体の回復や精神状態の改善などを図るリハビリが「作業療法」だ。だから作業療法士は「疾病を治すのではなく、暮らしを治す仕事」と言われている。「作業的サークル」は、その名の通り作業療法学科のカリキュラムで学んだことを、サークルにフィードバックして、より実践的な活動を行っているのだ。

「大学では、陶芸など、いろいろなものづくり

いろいろな人と触れ合ったり、
物を作ることが、こんなに楽しかったとは。

FILE #06
HAVE A LIVELY
IMAGINATION



福岡キャンパスを拠点に活動している作業的サークル。名前の通り「作業療法」に関連したものづくりが主な活動内容だが、地元の大牟田市で開催されるイベントでのボランティアやワークショップなど学外にも活動のすそ野を広げている。「いろいろな物を作ることができますし、ボランティアなど学内では経験できないこともできます。興味のある学生はぜひ!」と、リーダーの林さん。

を学ぶ授業があります。将来、実際の現場でも指導できるようになるためです。サークルの活動も、その延長でものづくりが主体。革のコスターや、ろうそくを溶かして作るカラーキャンドル。竹で水鉄砲を作ったりもします」

週に一度、メンバーが集集してものづくりを行う。何を作るかは「みんながやりたいことを自発的に提案して、みんなで決める」。メンバーそれぞれの得意分野のノウハウを全員で共有するというわけだ。制作した作品は、秋に開催される帝京祭で販売をする。また地域のイベントでもものづくりを通して、ワークショップを開催したり、ボランティア活動を行っている。子どもたちをはじめさまざまな年齢や立場の人と実際に触れ合い、物を作る楽しさを伝えることが、将来のためのかけがえのない経験になることを、みんな自覚している。しかしカリキュラムが多岐にわたる作業療法学科だけあって、実習や授業などと活動時間が重なってしまうことが多々あり、なかなか一堂に会することができない。それをどうやって解消するかが、リーダーとしての林さんの悩みだそう。

今年から実習が始まり実際の患者さんと初めて相対することに「不安はあります」と語る林さん。しかし自分がめざす作業療法士の姿は明確だ。「リハビリが終わって患者さんが退院されても、その後も付き合いが続く作業療法士になりたいですね。人と人とのつながりを大切にできたら、と思っています」

林さん、そして作業的サークルのメンバーが未来を見据える視線は、どこまでもまっすぐだ。



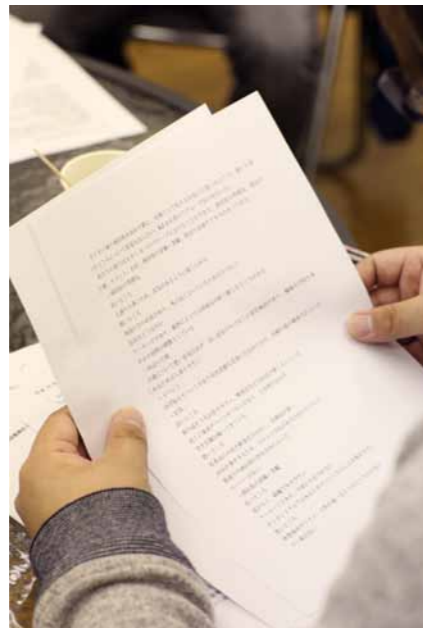
林 勇希

福岡医療技術学部作業療法学科2年生。高校時代吹奏楽部に所属し、将来は教師や人にものを教える職業に就きたかった林さん。帝京大学の入学説明会で作業療法士は音楽を活かせることを知り、志望した。

07

地元が好きだから。
生まれ育った
街に貢献したい。

YUKI ISHIKAWA
DEPARTMENT OF REGIONAL ECONOMICS



街づくり、地域の活性化。
本当にやりがいがある。

栃木県・宇都宮市の中心地にあるアーケード商店街「オリオン通り商店街」。毎週、その一角にある「オリオンACぶらざ」に、宇都宮キャンパスの学生が集まってくる。経済学部地域経済学科の山川充夫ゼミの面々だ。ゼミの柱は、オリオン通りの活性化調査事業。戦後の高度成長期には、日本でも有数の商店街だったオリオン通りも、大型ショッピングモールの進出や人口のドーナツ化によって、消費者が遠のいてしまった。そこで再び客足を戻すべく、学生の

観点から調査を実施し商店街の活性化につながる具体的な提案をしている。商店街の店舗をリサーチしたりアンケートを実施したりと、自分たちの足で調査を行って、商店街振興組合の代表者と積極的に意見交換を行っている。

地域経済学科が誕生したのは5年前。それまでの大学の経済学部と言うと、いわゆるグローバルな視点で、経済学を中心とする教育・研究を行うのが主流だった。それに対して、地域経済学科は「『グローバル』な観点で、地域活性化のあり方をみんなで勉強していこう、という地元密着型」と山川先生は語る。そんな「地域の活性化・再生を実現させる人物を育成する」とい





FILE #07
 CREATE THE
 NEW VALUE FOR
 YOUR AGE



地域経済学科の理念は、「地域の元気を創造すること。そのために街づくりのリーダーや農業・ベンチャーの起業家、地方自治体を担う人材を育成している。定員も100名と少数なので、石川さんのようにゼミでのきめ細かい研究が授業の主体となる。どのゼミも地域に密着した実践的なフィールドワークが特徴だ。卒業生の進路決定率は96パーセントと高い水準を誇っている。



廃れていく商店街を自分たちの手で元気にしたい。

うコンセプトに魅力を感じて志望した学生のひとり、3年生の石川祐樹さん。
 「栃木市が地元なんですけれど、生活している中で商店街が廃れていくのを感じて、さびしいなど。それで地元で貢献できることを勉強できないかなと思ったときに、ちょうど宇都宮キャンパスにぴったりの学科が新設されました、そこで学んでみたいと思ったのが地域経済学科に入ったきっかけです」

現在、山川ゼミの代表を務める石川さんが、他の学生もみな地元志向が強く、卒業後は地元で貢献できる仕事に就きたいという希望者がほとんどだと言う。
 「やはり、地元が好きって人が多いですね。みんな『俺の所にはこんな魅力がある!』とアツク語ります(笑)」
 座学だけではなくフィールドワークを行い、その結果を実際に地域に還元できるのが、地域

経済学科の魅力だと石川さんは語る。その好例のひとつが、「地元学を学ぼう」というテーマを掲げる金子弘道ゼミだ。「まず特定の地域を集中的に調査し独自の資源を発掘します。その資源をベースに学生同士が議論し、土地の魅力を見出して新たに興せる地域産業を考えます」と、金子先生。フィールドワークでビデオカメラを駆使して映画を作るなどユニークな手法で学生からの人気も高い。最終的には提案書を制作し

地域の「まちづくり委員会」で発表をする。
 授業だけでなく、学科の学生主体で運営されているサークル「帝京宇都宮まちづくり研究会」も、より実践的な活動を行っている。
 「学生の視点から宇都宮市の課題や問題点を見つけて、学生目線で解決をめざします」と、会長の国府田天音さんは研究会の目的を語る。
 地元愛あふれる地域経済学科の学生たち。彼らの力で街はどんどん元気になっていく。



石川祐樹

経済学部地域経済学科3年生。山川充夫ゼミの中心的存在。「街を活性化させる実践的な勉強ができるのが楽しいです。宇都宮市に街づくりの提案をしたのですが、実際に形になったのがうれしかったです。」

NEWS

帝京大学創立50周年特設サイトをオープンしました。

私たち帝京大学は、今年で創立50年。これを記念して、「帝京大学創立50周年特設サイト」を大学公式ホームページ内にオープンしました (http://www.teikyo-u.ac.jp/50th/)。2016年度を通して、本学公式

ホームページ特設サイト内でさまざまなコンテンツを公開していきます。50周年のスローガンは「歴史をしのぐ未来へ」。在学生や卒業生に対するメッセージともなるこのスローガンに込められた意味は……。

NEWS

第48回アジア太平洋公衆衛生学術連合国際会議が開催されます。

2016年9月16日(金)～9月19日(月・祝)にかけて、第48回アジア太平洋公衆衛生学術連合国際会議 (APACPH2016) が、帝京大学50周年記念国際学術集会の一環として板橋キャンパスにて開催されます。メインテーマは「過去をしのぐ未来へ：社会を変える保健医療専門職の力」。日本人研究者や実践者・変革者のもたらした成果、これからの保健医療専門職の教育と社会的役割等について議論します。同集会では、第10回帝京－ハーバードシンポジウムや各種ワークショップも同時に開催されます。多くの実務者と研究者が直接交流することで、日本の保健医療に関する研究や実践活動がいっそう発展する契機となることを期待されます。

NEWS

UHA味覚糖株式会社と共同研究、オーラルケアキャンディを開発しました。

帝京大学医真菌研究センターは、UHA味覚糖株式会社との共同研究により、口中環境管理を可能としたオーラルケアキャンディを開発しました。教学・研究で得られた知識と技術を活用し、社会に貢献することをめざしている本学にとって、今回の開発は口中衛生管理という社会的課題を解決する結実事例のひとつと言えます。



AWARD



ラグビー部、『第52回全国大学選手権大会』で7連覇を達成。

帝京大学ラグビー部(八王子キャンパス)は、2016年1月10日、『第52回全国大学選手権』決勝戦で東海大学に27対17で勝利し、史上初の全国大学選手権7連覇を達成しました。国立競技場の改修にともない、秩父宮ラグビー場(東京都港区)で開催された決勝戦は、東海大学との80分間の激闘となりました。本学ラグビー部は前半5対5で折り返し、後半には更に3

トライを加えることに成功。この結果、27対17(4トライ)で本学が優勝することができました。皆様のご声援、誠にありがとうございました。[たくさんの方々に支えていただき、優勝を勝ち取れたことに心から感謝申し上げます。東海大さんの粘りも見事であったと思いますが、4年生を中心としたまとまりの勝利であったと思います](岩出雅之監督)。

NEWS

駅伝競走部、『箱根駅伝』にて総合第10位に。

2016年1月2日(土)・3日(日)に開催された『第92回箱根駅伝』(東京都千代田区⇄神奈川県足柄下郡)において、帝京大学駅伝競走部(八王子キャンパス)が総合第10位で走り終え、来年度の同大会のシード権を獲得しました。「全体的に我慢のレース展開になりましたが、なんとかシード権は確保できました。多くの方々のご声援に心より感謝申し上げます」(中野孝行監督)。



Flair SPECIAL EDITION #01

FACT BOOK

March 2016 Spring
THE TEIKYO SELF

direction & edit & design
Mo-Green Co.,Ltd.
publisher
TEIKYO UNIVERSITY

cover photograph
MINA SOMA

photograph
MAKOTO KUJIRAOKA,
MINA SOMA, SHIN HAMADA

text
KEI OSAWA, TAKASHI SANO,
SATOKO NAKANO

NEXT ISSUE

Flair
SPECIAL EDITION #02

VISION BOOK

「未来」を見据える
インタビュー集。

次号、『Flair』vol.102は、創立50周年記念特別号の第2弾。帝京大学卒業生の中から、大学で学んだことを糧とし、身につけた「自分流」を活かしてさまざまな分野で活躍されている方々にご登場いただきます。みなさんの言葉を読むだけで、帝京大学を卒業した後の未来がぐっとクリアになるはずです。どうぞお楽しみに！
*内容は一部変更となる場合があります